

令和5年度施政方針

たていと よこいと
(経糸と緯糸)

(令和5年第1回川島町議会定例会)

令和5年3月1日

川島町

それでは、議長からお許しをいただきましたので、本定例会においてご審議をいただきます諸案件に先立ちまして、令和5年度の町政経営に関する基本的な考え方を申し述べます。

(はじめに)

昭和47年(1972年)11月3日に町制を施行した私たちの町、川島町は、昨年、50年という節目の時を迎え、記念式典をはじめ、各種冠事業や記念事業を開催いたしました。先人のたゆまぬ努力と英知によって、本町はこの50年の間に着実に発展を遂げました。特に、圏央道川島インターチェンジ設置に伴う周辺開発は、産業団地やショッピングセンターなどを形成し、町にとっても雇用の創出と大きな経済効果を生み出しました。

川島町誕生から51年目にあたる令和5年度は、新たな歩みを始める大事な一年になると捉えております。私の3期目の初年と合わせ、子育て支援や高齢者対策、空き家対策など、数ある課題、施策に、職員ともども「ワンチーム」となって、真摯に、誠実に、そして、公正に歩みを進めてまいります。

「まもる」

東日本各地に甚大な被害をもたらした令和元年の台風19号は、この10月で発生から5年目を迎えます。幸いにも、本町の被害は多くはなかったものの、私たちはこの台風禍から多くの課題を得、また、多くの教訓を学びました。「備えあれば 憂いなし」。いざ、というとき、あわてないために、日頃からの準備、心構えが何よりも大切です。

本町では、まずは自分の身を守るため、町外への広域避難を進めておりますが、避難できなかつた方への一時的な緊急避難場所として、高台避難場所を整備することにしております。そこで、

令和5年度は、出丸地区内に整備する高台避難場所の用地取得等を行います。

また、老朽化が著しいごみ処理施設は、新たな整備地を昨年、大字三保谷宿地内に決定いたしました。また、ごみ処理の広域化につきましても、桶川市、東松山市と2市1町で進めてまいりましたが、本年1月に東松山市から、これ以上の参画は難しいとの通知があり、桶川市との協議の結果、引き続き、1市1町で広域処理を推進することとなりました。

令和5年度は、より前に進むために、新たに協議会を立ち上げるとともに、施設整備に向けた各種計画策定を行ってまいります。

長年の懸案課題となっておりました主要地方道日高川島線の拡幅整備事業は、ようやく実施段階のめどがつき、本事業のロードマップが示されました。町といたしましても、県と相互に協力しあい、安全性の確保と利便性の向上を図っていく所存です。

県道川越栗橋線につきましても、歩道が未整備となっている部分が多く残っていることから、歩行者や自転車の安全通行のため、引き続き、整備の推進を県へ要望してまいります。

また、今回の選挙戦を通じて感じた、多々ある事の一つに空き家問題があります。全国的な少子高齢化に加え、本町は高齢化率も高くなっており、空き家を誘発する要因の一つとなっております。町では、一昨年、「川島町空家等対策計画」を策定しておりますが、令和5年度は特に意を用いて空き家等対策に取り組んでまいります。

同じく、高齢の皆様への支援も改めて強化していかなければならないと感じたところであります。そこで、令和5年度は、介護や障がい・子育て・生活困窮といった各分野の事業の連携を図り、重層的に支援できる体制を構築してまいります。また、高齢者に関する保健事業と介護予防事業を一体的に実施する体制も構築し、高齢の皆様が健康で安心して住み続けられるよう進めてまいります。

す。単身や高齢夫婦のみの世帯も増えてきており、不幸にしてお亡くなりになれば、すぐに空き家の問題が出てまいります。元気なうちに、不安を取り除く施策を整えてまいります。

「つなぐ」

新たな集いの場を創出する「地域活動センター(仮称)」の開設ですが、令和5年度も検討委員会において、本町に見合ったセンターの方向性等を検討してまいります。このほか、かわじま郷土資料館(仮称)開設準備事業や、「かわじま未来塾」への活動支援、コミュニティ推進事業など、人と人をつなぐ事業につきましても引き続き、進めてまいります。

「つくる」

地域資源を最大限活用して稼ぐ力を向上させ、地域経済のさらなる発展を図るため、令和5年度は、デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)を活用し、町内事業者へのふるさと納税制度を利用した販売力向上への支援や、地域資源のPR情報誌の作成、地域商社の支援を行ってまいります。また、令和5年度も県の補助金を活用し、地域おこし協力隊を受け入れるとともに、地域商社「一般社団法人さまちか」へも職員を引き続き、派遣してまいります。

農業分野では、ロボット技術やICT等の先端技術を活用した機器導入や農産物の販路拡大等を目指す、「輝け！農業イノベーション応援事業」により、新規就農者・認定農業者を支援してまいります。なお、圏央道川島インターチェンジ南側地区の開発につきましては、引き続き、県や関係機関との調整を図りながら、本町の輝く未来に向けたまちづくりを進めてまいります。令和5年度は、都市計画決定に向けた準備を進めてまいります。

「そだてる」

今回の選挙活動でもう一つ強く感じたことが、少子化、子育て支援であります。川島町民憲章に「かわじまの宝だ 伸ばせ子供たち」とあるように、子供たちは町の宝物です。夢を育み、豊かな感性と社会を生き抜く力を養う教育・保育の充実に力を入れてまいります。

教育の分野では、子供たちにとって望ましい教育環境を確保するため、令和4年度から教育委員会内に学校統合推進室を設け、小中一貫教育についての研究を進めておりますが、令和5年度は、つばさ南小学校とつばさ北小学校の統合に向けた「川島町小学校統合協議会」を設置いたします。また、令和5年度は、民間のスイミングスクールと連携し、全小学校での水泳授業を実施してまいります。

子育て支援では、母子保健事業を健康福祉課から子育て支援課に移管し、新たに妊娠から子育てまで切れ目のない支援を行う「子ども家庭センター」を設置いたします。また、保育園や幼稚園において、給食費への保護者の経済的な負担軽減を図るとともに、多子世帯への学校給食費の全額助成等を行ってまいります。さらには、私立幼稚園の認定こども園施設整備費補助や保育園ICT化推進、子育て支援用品支給事業の拡充など、町全体で子育てを応援していく体制づくりを進めます。

以上、雑ぱくではございますが、第6次川島町総合振興計画の「まもる」「つなぐ」「つくる」「そだてる」の四つの戦略目標ごとに、令和5年度の主要施策等を申し上げました。

なお、各会計の当初予算は、厳しい財政状況ではありますが、新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵略に伴う原油価格や諸物価高騰など、様々な難局を乗り越え、持続可能な

社会の実現を目指しながら、第6次川島町総合振興計画に位置づけた各施策を計画的かつ効果的に展開するものとして、重点的に配分いたしました。

その結果、一般会計は、77億5,000万円となり、前年比2億3,700万円、率にして3.2%の増となりました。

また、特別会計は、

国民健康保険特別会計が1.6%増の23億7,000万円、

介護保険特別会計が4.5%増の20億1,100万円、

後期高齢者医療特別会計が7.7%増の3億424万円、

そして水道事業会計が15.9%増の8億290万2千円、

下水道事業会計が29.2%減の8億1,264万4千円

となりました。

予算に基づく主要事業は、令和5年度予算案の概要や「令和5年度予算書」をご参照くださいますようお願いいたします。また、傍聴の皆様や町民の皆様にはお手数でも情報公開コーナーや町ホームページでご覧いただければ幸いです。

むすびに、「経営は経糸（たていと）と緯糸（よこいと）のようなもの」であるといわれます。経糸は、時が経っても「変わらないもの」であり、理念や価値観を指します。緯糸は、その時代に合わせて「変えていくもの」にたとえられます。いわば「不易と流行」の関係であります。

しっかりと張った経糸（理念）に緯糸で彩りをつけていくわけですが、理念がしっかりしていなければ、いくらきれいな緯糸を通しても、良い織物は誕生いたしません。自治体経営もしかり。常に千変万化する時代に柔軟に適応しつつ、確固とした変わらない基本理念を持って、今年一年、まちづくりにまい進していく所存です。

「ここが好き、やっぱり好き」と、多くの皆様に言っていただける川島町にするために、町民の皆様並びに議員各位におかれましては、引き続きご支援とご協力を賜りますことをお願い申し上げます、令和5年度の町政経営に対する方針といたします。

令和5年3月1日

川島町長 飯島和夫